

ICT技術の導入によるデータに基づくイチゴ栽培管理の確立(伊勢市、鳥羽市、熊野市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、紀北町、御浜町)

実施主体: 伊勢いちごスマート農業研究会 取組期間: 令和3年～ キーワード: 環境測定装置、データの見える化

1 産地の概要

<対象地域> 伊勢市、鳥羽市、熊野市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、紀北町、御浜町

<対象品目> イチゴ

<産地の現状・課題>

当産地では、高設栽培や暖房機、炭酸ガス発生機等の導入、三重県育成の多収品種「かおり野」の導入を進めるなど、生産力の向上に取り組んできたが、近年、単収は頭打ちし、生産者間でも3t/10a～7t/10a程度まで単収にばらつきがある。

また、新規就農者については、資材の高騰など経営環境は厳しさを増しており、経営安定のため、早期の技術習得が必要となっている。

そのため、技術力の高い生産者の栽培技術をデータにより見える化し、栽培技術の高位平準化を図るとともに、収量の高い生産者においても、収量・品質のさらなる向上が求められている。

2 検討体制

<伊勢いちごスマート農業研究会の構成員と役割>

- ・生産者(役割: 実証圃場の設置・管理、実証データの記録・提供)
- ・伊勢農業協同組合(役割: 実証データの集約、研究会運営支援)
- ・伊勢志摩地域農業改良普及センター、紀州地域農業改良普及センター(役割: 関係者との調整、実証データの解析、技術支援、計画策定支援)



現地研修会

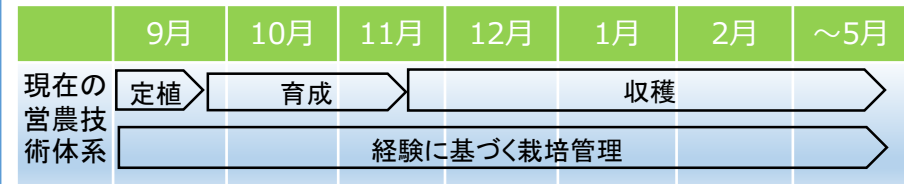


検討会

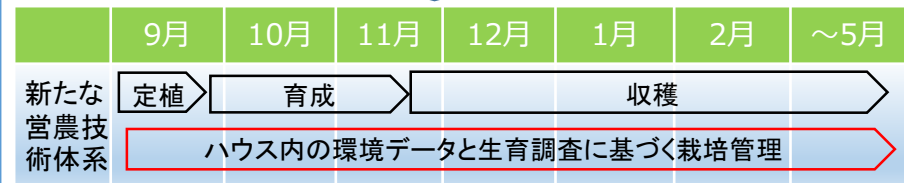
3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

経験に基づき実施している栽培管理について、環境測定装置を導入し、ハウス内の環境・生育・収量のデータを分析し、生産者ごとに収量・品質目標に応じた栽培管理を実践・検証することで、栽培技術の高位平準化と新たな栽培技術体系を構築する。



環境測定装置の導入



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

【現状】経験に基づく栽培管理 → 環境データと生育調査に基づく栽培管理

増収効果5%↑※ ※研究会と産地全体の単収比較

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>



問い合わせ先: 伊勢志摩地域農業改良普及センター普及1課 TEL:0596-27-5173